

小金井市民意向調査
アンケート結果

目次

1. 調査概要	1
(1) 調査の目的	1
(2) 調査項目（全 28 問）	1
(3) 実施方法	1
(4) 集計に関する留意事項等	1
2. 調査結果	2
(1) あなたご自身とあなたの家族について	2
(2) あなたのお住まいについて	4
(3) 同居・近居（親世帯や子世帯の近隣で暮らすこと）について（2 問）	6
(4) 住環境の満足度について	7
(5) 定住・住み替えの意向について	8
(6) 市の住宅施策について	14
(7) コミュニティのあり方について	16

1. 調査概要

(1) 調査の目的

市民の皆様が住まいに対して日頃から感じていることや、小金井市の住宅政策に対するご意見・ご要望などを広くお聞きし、小金井市住宅マスタープランに反映させるため。

(2) 調査項目 (全 28 問)

- ・あなたご自身とあなたの家族について (5 問)
- ・あなたのお住まいについて (6 問)
- ・同居・近居 (親世帯や子世帯の近隣で暮らすこと) について (2 問)
- ・住環境の満足度について (1 問)
- ・今後のお住まいについて (5 問)
- ・定住・住み替えの意向について (10 問)
- ・市の住宅施策について (1 問)
- ・コミュニティのあり方について (3 問)
- ・自由記述

(3) 実施方法

市内在住の 18 歳以上の方を対象として、住民基本台帳から無作為に 2,000 人を抽出し、郵送によるアンケート調査票の配付・回収を実施しました。

1) 調査対象者

市内在住の 18 歳以上の方 2,000 人 (住民基本台帳から無作為抽出)

2) 実施期間

郵送配付：令和 2 年 9 月 1 日 (火)

返送期限：平成 2 年 9 月 30 日 (水)

3) 回収結果

配布数：2,000 件 (うち英語、中国語、韓国語のアンケート票を同封した件数：50 件)

回収数：735 件 (うち英語アンケート票での回答：4 件、中国語アンケート票での回答：2 件)

回収率：36.8%

(4) 集計に関する留意事項等

- ・指定した回答数を超えて回答があった場合は、無効回答として「無回答」扱いで集計した。
- ・条件付きで回答を求める設問に対し、条件に合わない回答があった場合(選択肢 1 を選んだ場合のみ回答する設問に対し、選択肢 2 を選んでいるにも関わらず回答があった場合など)は、無効回答として「無回答」扱いで集計した。
- ・調査結果は、比率を全て百分率 (%) で表し、小数点第 2 位以下を四捨五入して表示している。そのため、比率の合計が 100.0% となっていない場合がある。

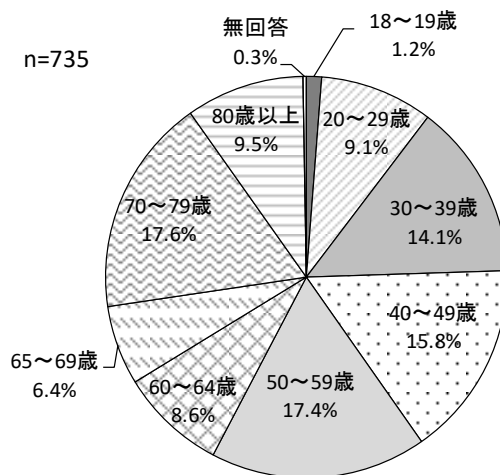
2. 調査結果

(1) あなたご自身とあなたの家族について

1) 年齢 (問1) <単数回答>

高齢者が約3割を占める

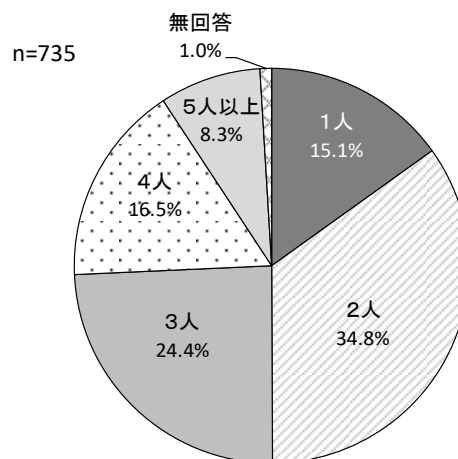
「70～79歳」が17.6%と最も多く、次いで「50～59歳」が17.4%となっている。また、65歳以上の高齢者が33.5%を占めている。



2) 同居世帯人数 (問2) <単数回答>

2人世帯が約3分の1と最も多い

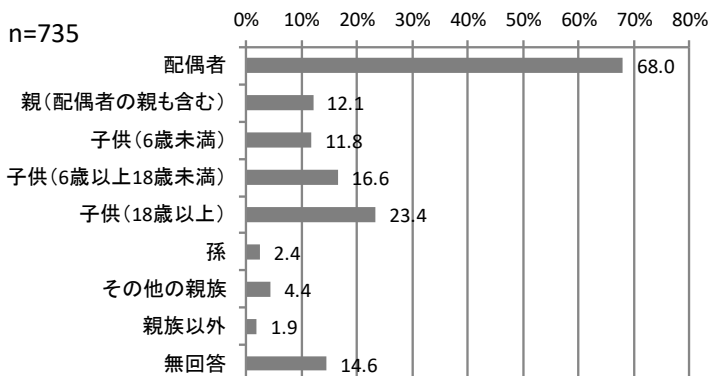
「2人」が34.8%と最も多く、次いで「3人」が24.4%、「4人」が16.5%、「1人」が15.1%となっている。また、単身世帯、2人世帯で約半数を占めている。



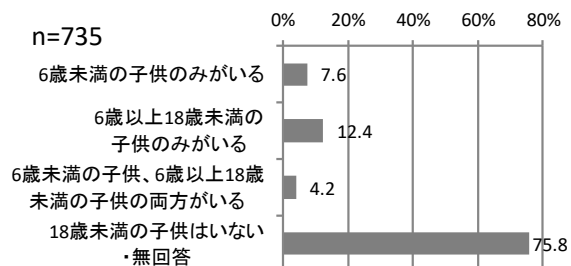
3) 同居家族との間柄 (問3) <複数回答>

配偶者との同居が約7割、18歳未満の子供との同居が約4分の1を占める

「配偶者」が68.0%と最も多く、次いで「子供(18歳以上)」が23.4%、「子供(6歳以上18歳未満)」が16.6%となっている。また、18歳未満の子供がいる世帯(「子供(6歳未満)」「子供(6歳以上18歳未満)」のどちらか、又は両方を選んだ世帯)は24.2%となっている。



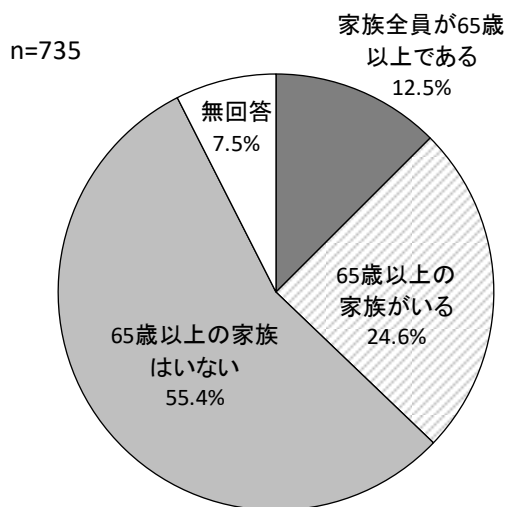
■18歳未満の子供がいる世帯数の集計



4) 同居の高齢者家族の有無（問4）＜単数回答＞

高齢者家族のいる世帯が全体の3分の1を占める

「65歳以上の家族はいない」が55.4%と最も多いものの、「65歳以上の家族がいる」が24.6%、「家族全員が65歳以上である」が12.5%となっており、37.1%の世帯に高齢者が居住している。



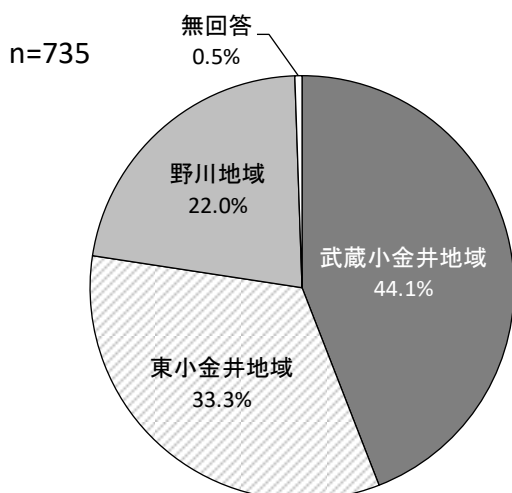
5) 居住地区（問5）＜単数回答＞

武蔵小金井地域、東小金井地域、野川地域の順に回答数が多い

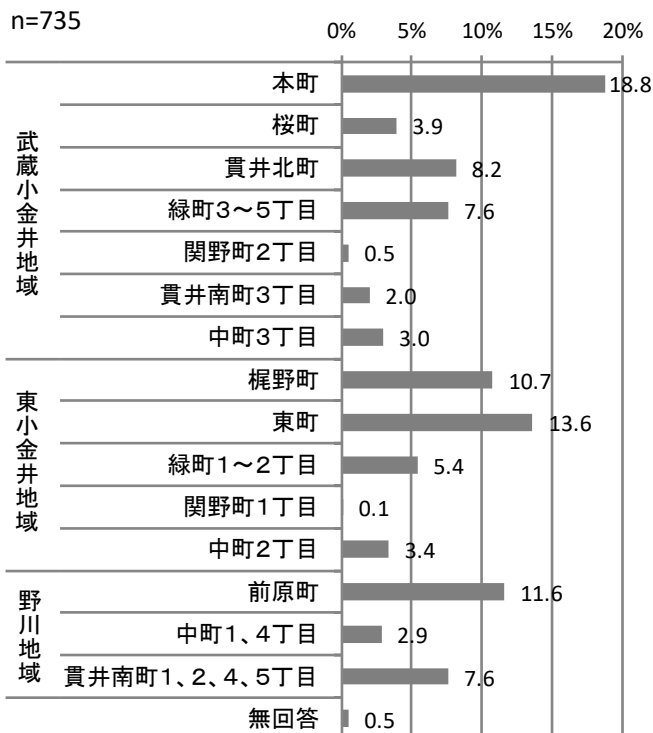
「武蔵小金井地域」に住む方が44.1%と最も多く、次いで「東小金井地域」が33.3%、「野川地域」が22.0%となっている。

町丁目にみると武蔵小金井地域では「本町」が18.8%と最も多く、次いで「緑町3～5丁目」が7.6%となっている。同様に、東小金井地域では「東町」が13.6%と最も多く、次いで「梶野町」が10.7%、野川地域では「前原町」が11.6%と最も多く、次いで「貫井南町1、2、4、5丁目」が7.6%となっている。

■地域別



■町丁目別



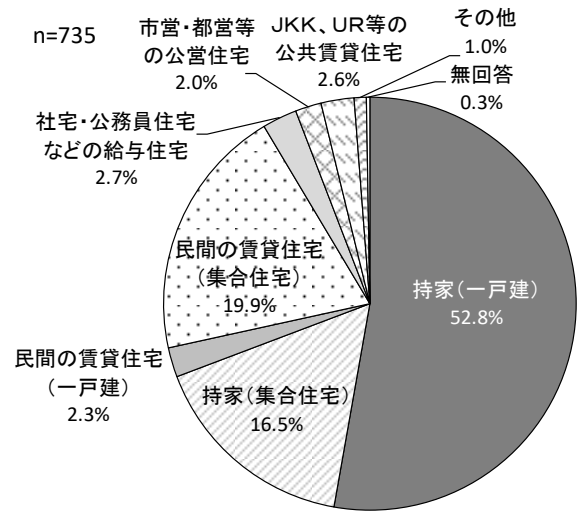
(2) あなたのお住まいについて

1) 住宅の種別 (問6) <単数回答>

約7割が持家に居住している

「持家(一戸建)」が52.8%と最も多く、次いで「民間の賃貸住宅(集合住宅)」が19.9%、「持家(集合住宅)」が16.5%となっている。

一戸建と集合住宅を合わせた持家世帯が全体の69.3%を占めている。また、持家、借家を合わせた集合住宅には36.4%が居住している。

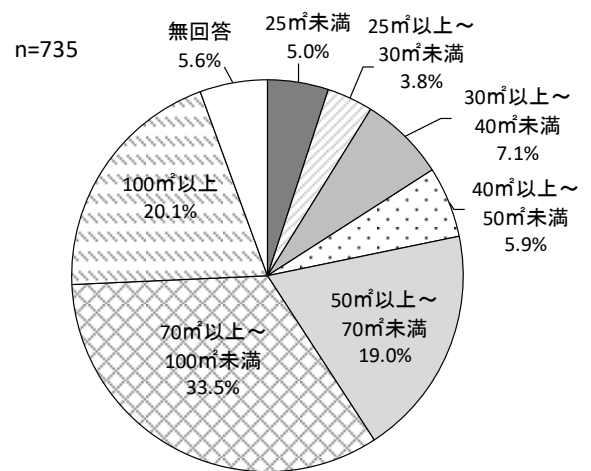


2) 住宅の広さ (問7) <単数回答>

70㎡以上の住宅が過半数を占める

「70㎡以上～100㎡未満」が33.5%と最も多く、次いで「100㎡以上」が20.1%、「50㎡以上～70㎡未満」が19.0%となっている。

70㎡以上の住宅に居住している世帯が53.6%を占めている。

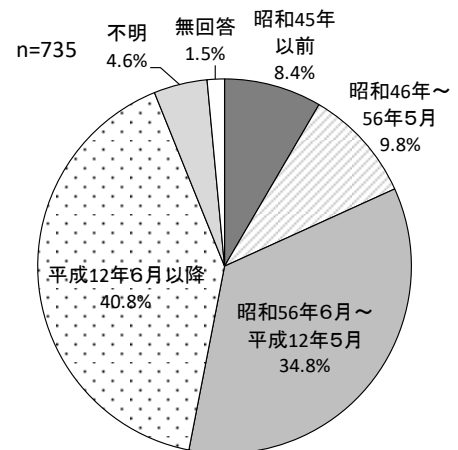


3) 住宅の建築年 (問8) <単数回答>

昭和56年5月以前に建てられた住宅が約2割を占める

「平成12年6月以降」が40.8%と最も多く、次いで「昭和56年6月～平成12年5月」が34.8%、「昭和46年～56年5月」が9.8%、「昭和45年以前」が8.4%となっている。

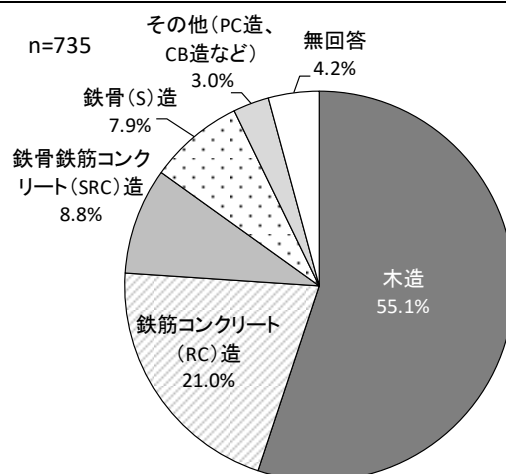
昭和56年5月以前の旧耐震基準で建てられた住宅は18.2%を占めている。



4) 住宅の構造 (問9) <単数回答>

木造住宅が全体の過半数を占める

「木造」が55.1%と最も多く、次いで「鉄筋コンクリート (RC) 造」が21.0%、「鉄骨鉄筋コンクリート (SRC) 造」が8.8%、「鉄骨 (S) 造」が7.9%となっている。

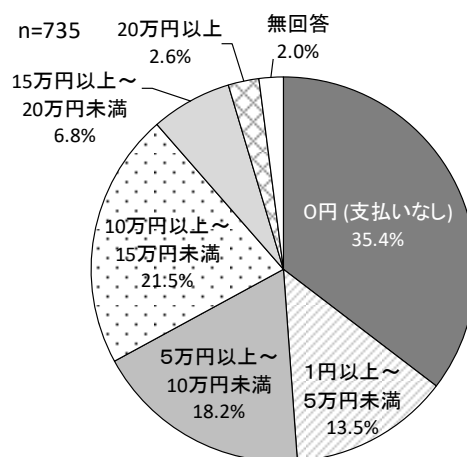


5) 住宅の1か月あたりの住居費 (問10) <単数回答>

約6割の世帯に住居費の支払いがあり、10万円以上の住居費が必要な世帯も約3割いる

「0円(支払いなし)」が35.4%と最も多く、次いで「10万円以上~15万円未満」が21.5%、「5万円以上~10万円未満」が18.2%となっている。

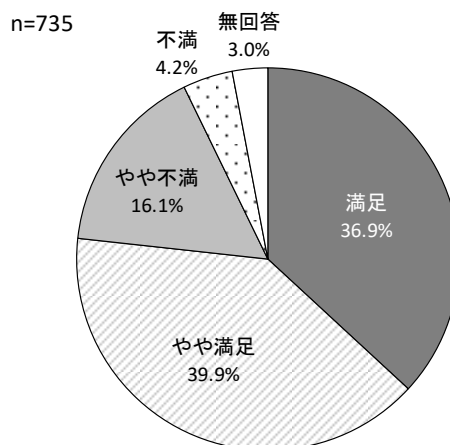
住居費の支払いがある世帯は62.6%となっており、そのうち10万円以上の負担がある世帯は、全世帯のうち30.9%となっている。



6) 住まいの満足度 (問11) <単数回答>

4分の3以上の世帯が住まいに対し満足している

「やや満足」が39.9%と最も多く、次いで「満足」が36.9%となっており、住まいの満足度(「満足」と「やや満足」の合計)は76.8%となっている。



(3) 同居・近居（親世帯や子世帯の近隣で暮らすこと）について（2問）

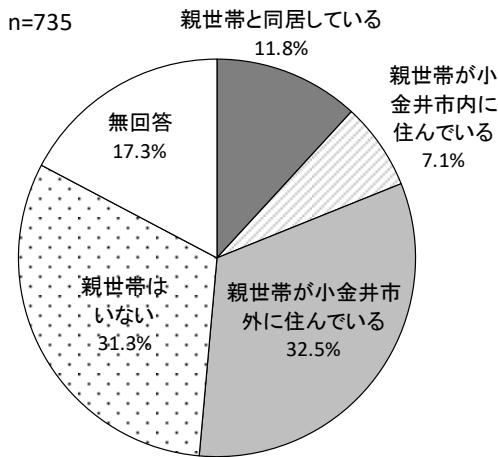
1) 現在の同居・近居の状況（問12）＜単数回答＞

親世帯、子世帯と同居している世帯はそれぞれ約1割

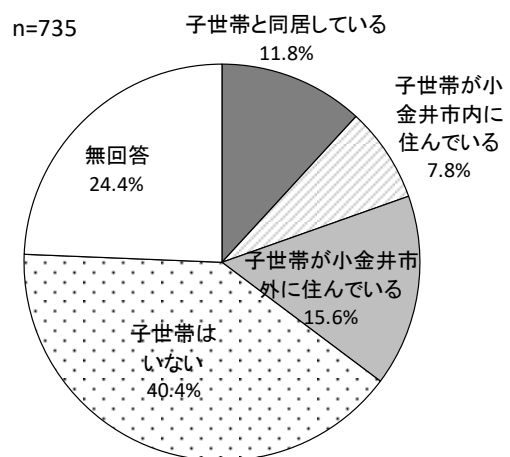
親世帯に関して「小金井市外に住んでいる」が32.5%と最も多く、次いで「いない」が31.3%、「同居している」が11.8%、「小金井市内に住んでいる」が7.1%となっており、親世帯がいる世帯は51.4%となっている。

また、子世帯に関しては「いない」が40.4%と最も多いものの、次いで「小金井市外に住んでいる」が15.6%、「同居している」が11.8%、「小金井市内に住んでいる」が7.8%となっており、子世帯がいる世帯は35.2%となっている。

①親世帯について



②子世帯について



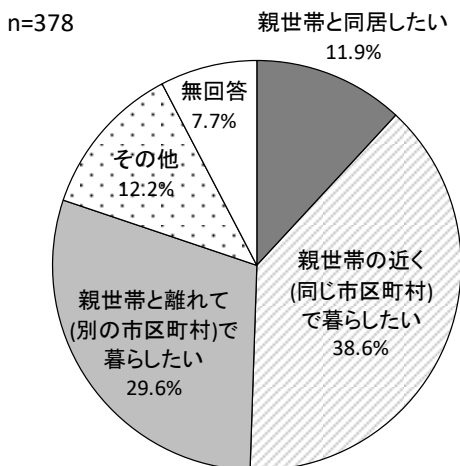
2) 将来の同居・近居の意向（問13）＜単数回答＞

親世帯、子世帯との近居をそれぞれ約4割が望んでいる

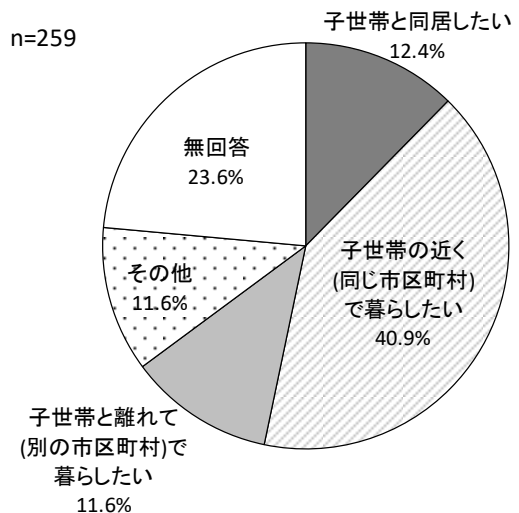
親世帯に関して「近く(同じ市区町村)で暮らしたい」が38.6%と最も多く、次いで「離れて(別の市区町村)で暮らしたい」が29.6%、「同居したい」が11.9%となっている。

また子世帯に関しては「近くで暮らしたい」が40.9%と最も多く、次いで「同居したい」が12.4%、「離れて暮らしたい」が11.6%となっている。

①親世帯について



②子世帯について



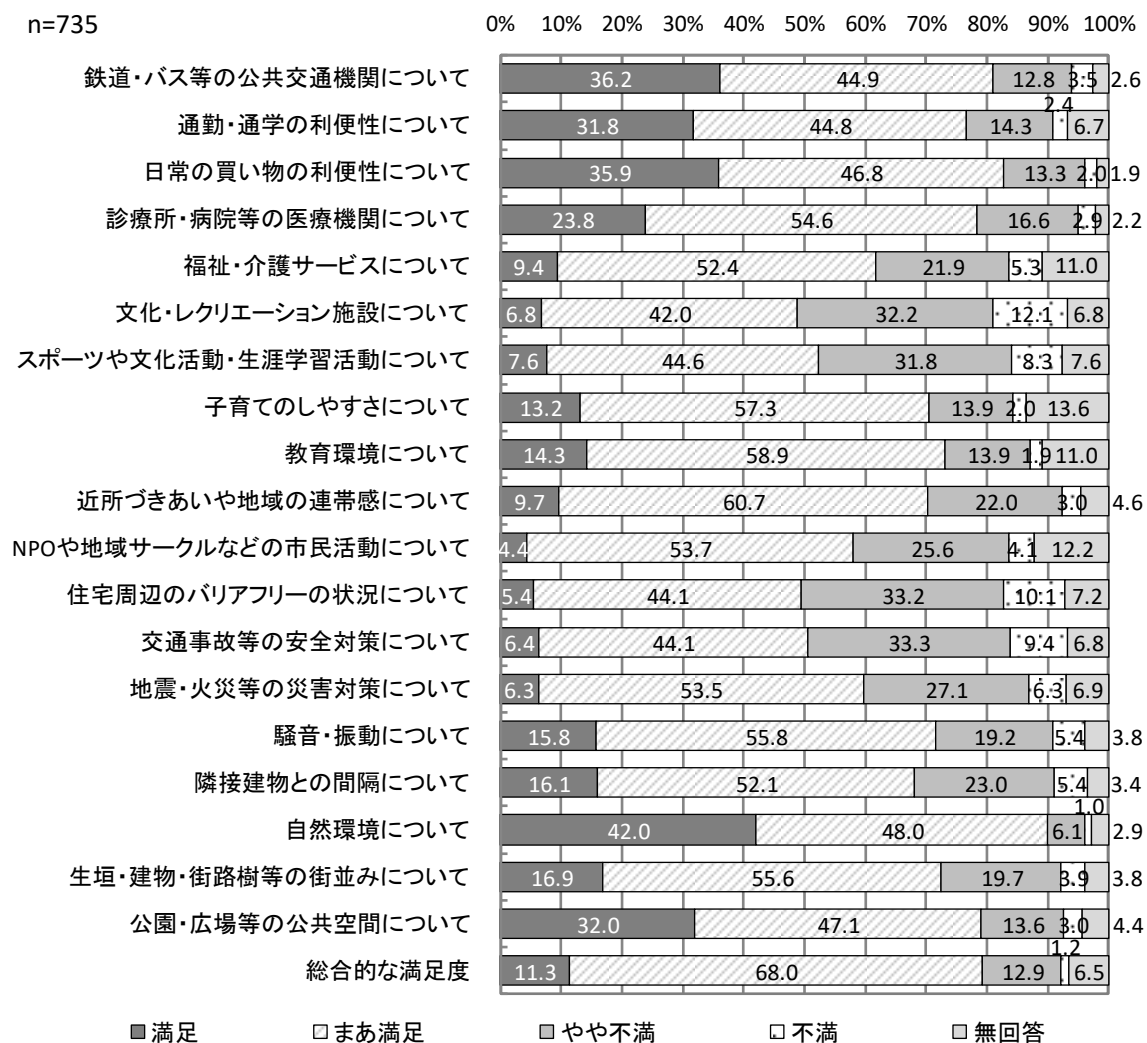
(4) 住環境の満足度について

1) 住まいの周辺環境に関する満足度（問14）〈各項目への単数回答〉

公共交通機関や医療機関などの利便性に加え、自然環境の豊かさなどに対する満足度が高い

住まいや周辺環境に関する満足度は、「総合的な評価」で満足度（「満足」と「やや満足」の合計）が79.3%を占めた。

項目別にみると、「鉄道・バス等の公共交通機関について」や「診療所・病院等の医療機関について」など日常的な利便性に関するものや、「自然環境について」の項目で満足度が高くなっている。その反面、「文化・レクリエーション施設について」など文化やスポーツに関する項目に加え、「住宅周辺のバリアフリーの状況について」や「交通事故等の安全対策について」などバリアフリーや防災に関する項目において比較的低い満足度が示されている。

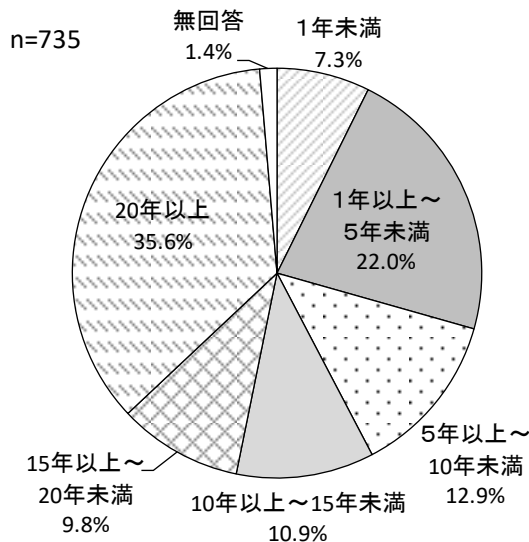


(5) 定住・住み替えの意向について

1) 現在の住まいでの居住期間 (問 15) <単数回答>

現在の住まいに 20 年以上住み続けている方が 3 分の 1 以上を占める

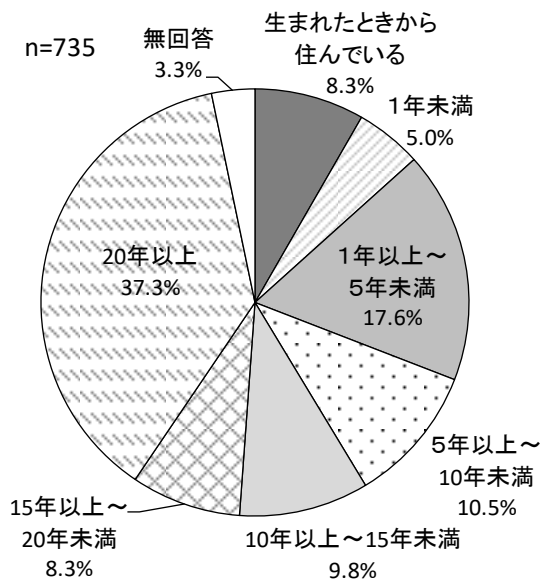
「20 年以上」が 35.6%と最も多く、次いで「1 年以上～5 年未満」が 22.0%、「5 年以上～10 年未満」が 12.9%、「10 年以上～15 年未満」が 10.9%となっている。



2) 小金井市内での居住期間 (問 16) <単数回答>

市内に 20 年以上住み続けている方が 4 割近く、生まれたときから住んでいる方も約 8%を占める

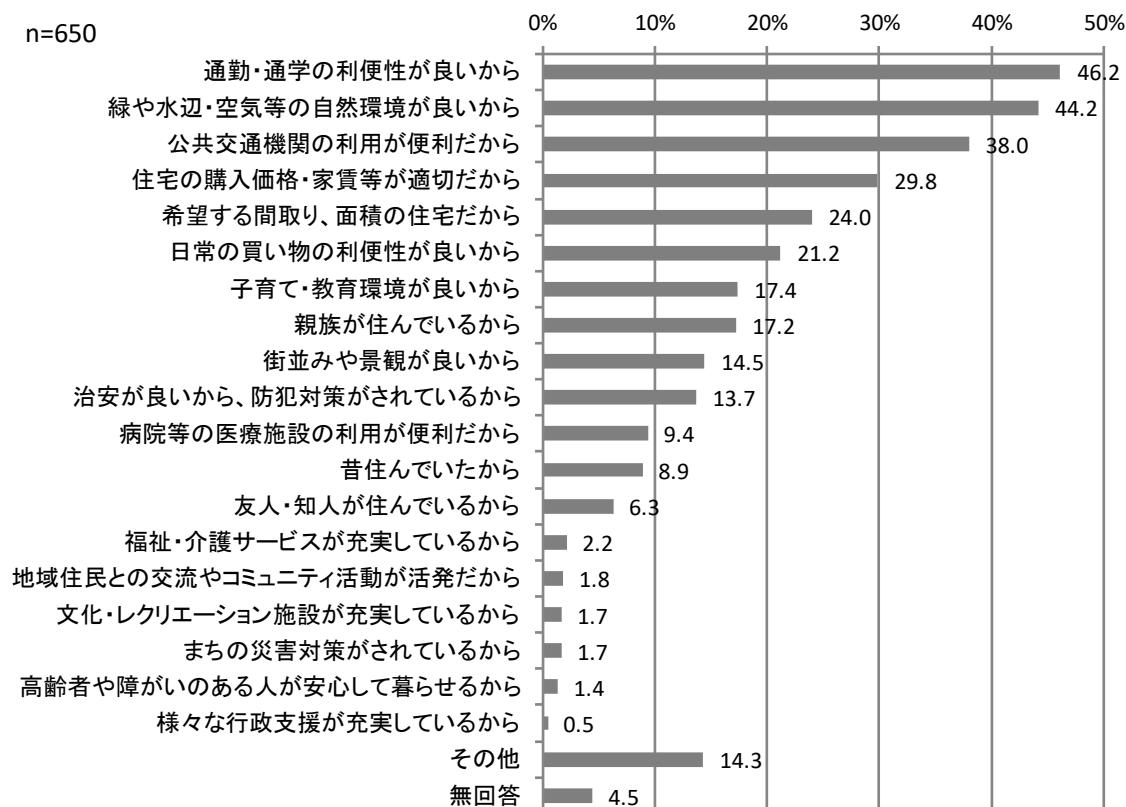
「20 年以上」が 37.3%と最も多く、次いで「1 年以上～5 年未満」が 17.6%、「5 年以上～10 年未満」が 10.5%となっている。また、「生まれたときから住んでいる」とした方も 8.3%いる。



3) 転入した際に重視した点 (問 17) <複数回答>

転入理由として、特に日常移動の利便性や自然環境の良さが重視されている

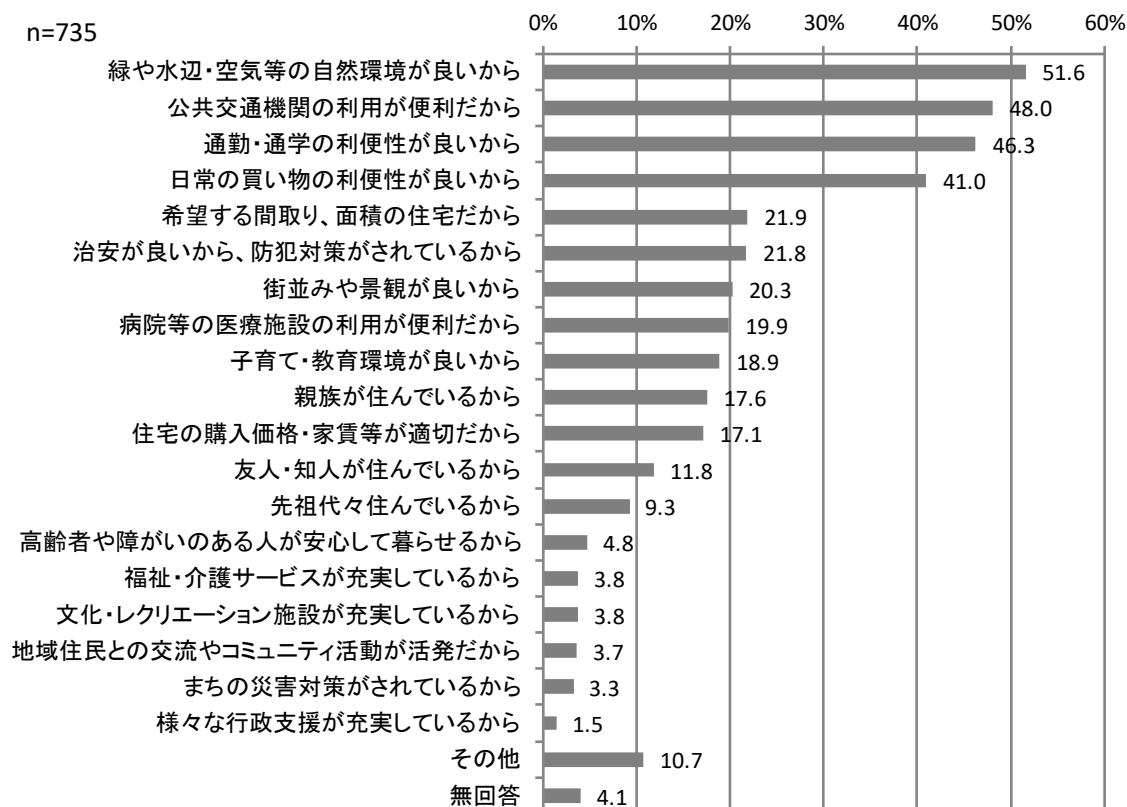
「通勤・通学の利便性が良いから」や「公共交通機関の利用が便利だから」など日常移動の利便性に関する項目のほか、「緑や水辺・空気等の自然環境が良いから」が約4割を占めている。次いで「住宅の購入価格・家賃等が適切だから」や「希望する間取り、面積の住宅だから」など住まいに関する項目が約2~3割を占めている。



4) 小金井市に住み続けている理由（問 18）＜複数回答＞

定住理由として、特に自然環境の良さや日常的な利便性が重視されている

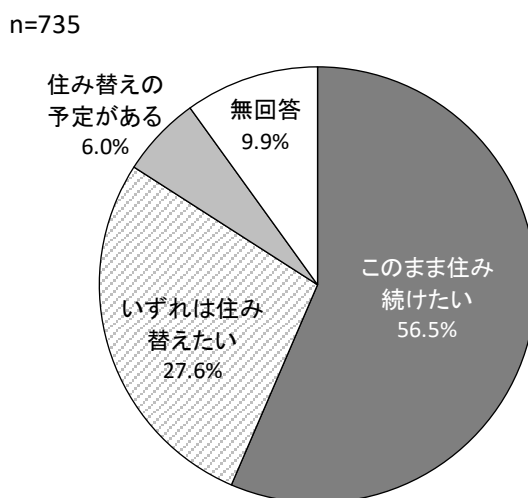
「緑や水辺・空気等の自然環境が良いから」が51.6%と最も多く、次いで「公共交通機関の利用が便利だから」や「通勤・通学の利便性が良いから」、「日常の買い物の利便性が良いから」などの日常行動の利便性に関する項目がそれぞれ4割以上を占めている。



5) 今後の住み替えの意向（問 19）＜単数回答＞

現在の住まいに住み続けたい意向が過半数を占めている

「このまま住み続けたい」が56.5%と最も多いものの、「いずれは住み替えたい」が27.6%、「住み替えの予定がある」が6.0%となっており、住み替え意向のある世帯も33.6%いる。



6) 住み替える場合の転居先 (問 20) <単数回答>

住み替え先の希望は、「東京都内の他市区町村」約3割と最も多い

「分からない」を除くと、「東京都内の他市区町村」が29.6%と最も多く、次いで「小金井市内」が18.6%、「他道府県」が9.7%となっている。

■具体的な転居先 (他自治体)

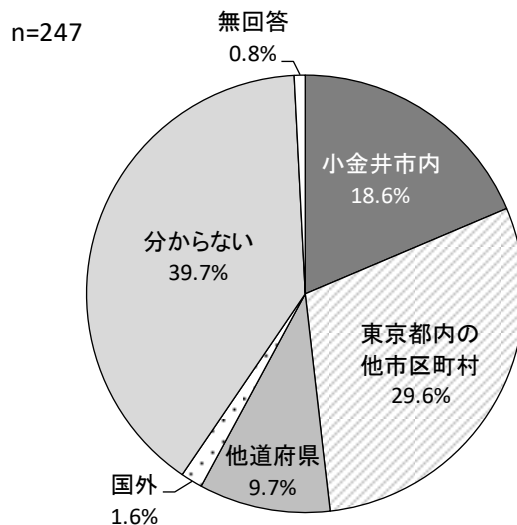
(複数回答があった自治体のみ抜粋、括弧内は票数)

<東京都内>

武蔵野市 (10)、杉並区 (9)、練馬区 (2)、港区 (2)、渋谷区 (2)、府中市 (2)、日野市 (2)

<他道府県>

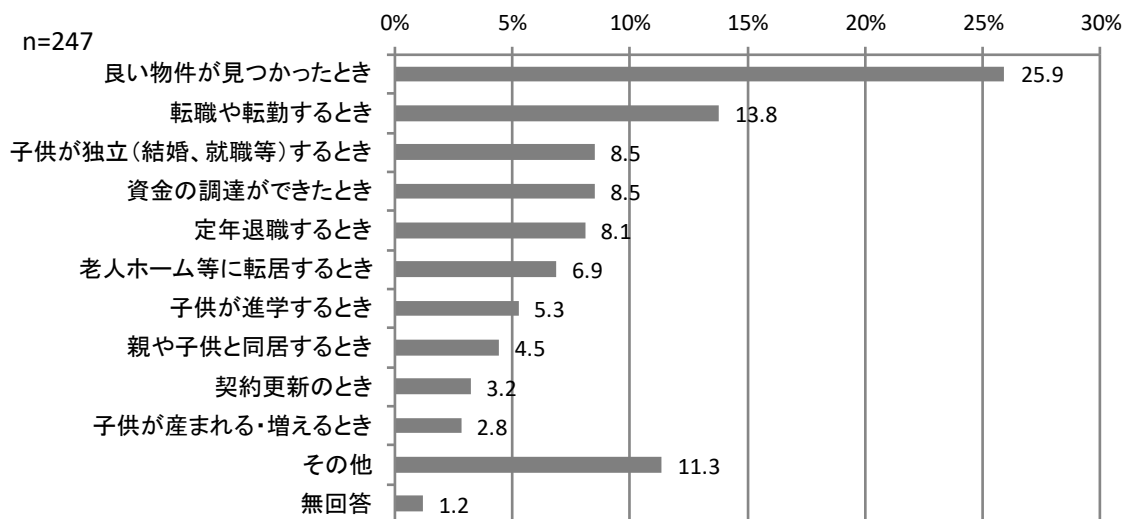
神奈川県 (3)、埼玉県 (2)、静岡県 (2)、広島県 (2)



7) 住み替える時期 (問 21) <単数回答>

住み替える時期は「良い物件が見つかったとき」とする回答が約4分の1を占める

「良い物件が見つかったとき」が25.9%と最も多く、次いで「転職や転勤するとき」が13.8%となっている。

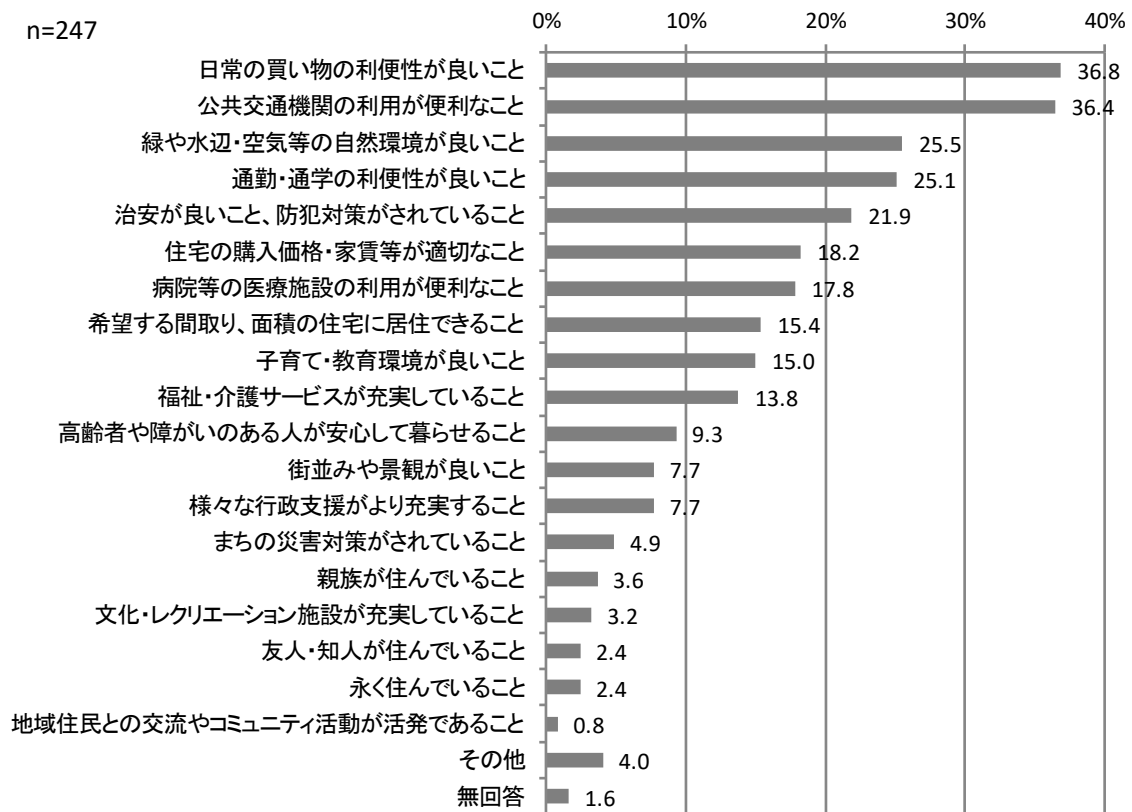


8) 小金井市内に住み続ける際に重視する点 (問 22) <複数回答 (3つまで)>

日常の買い物や公共交通機関の利便性が重視されやすい

「日常の買い物の利便性が良いこと」や「公共交通機関の利用が便利なこと」などの日常行動の利便性に関する項目がそれぞれ 36.8%、36.4%と 3 分の 1 以上を占めており、次いで「緑や水辺・空気等の自然環境が良いこと」が 25.5%となっている。

「小金井市に転入した際に重視した点 (問 17)」「小金井市に住み続けている理由 (問 18)」と、同様の傾向がみられる。

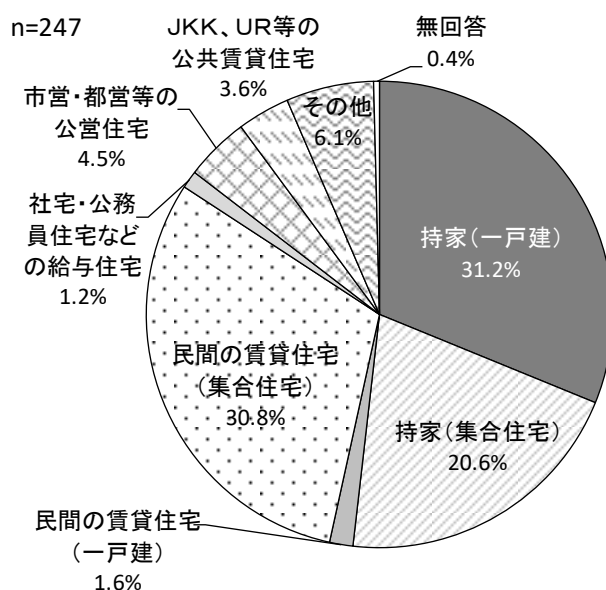


9) 住み替える場合の住宅（問 23）＜単数回答＞

現在の住宅より、民間の賃貸住宅（集合住宅）への居住意向が高くなっている

「持家（一戸建）」が31.2%と最も多く、次いで「民間の賃貸住宅（集合住宅）」が30.8%、「持家（集合住宅）」が20.6%となっている。

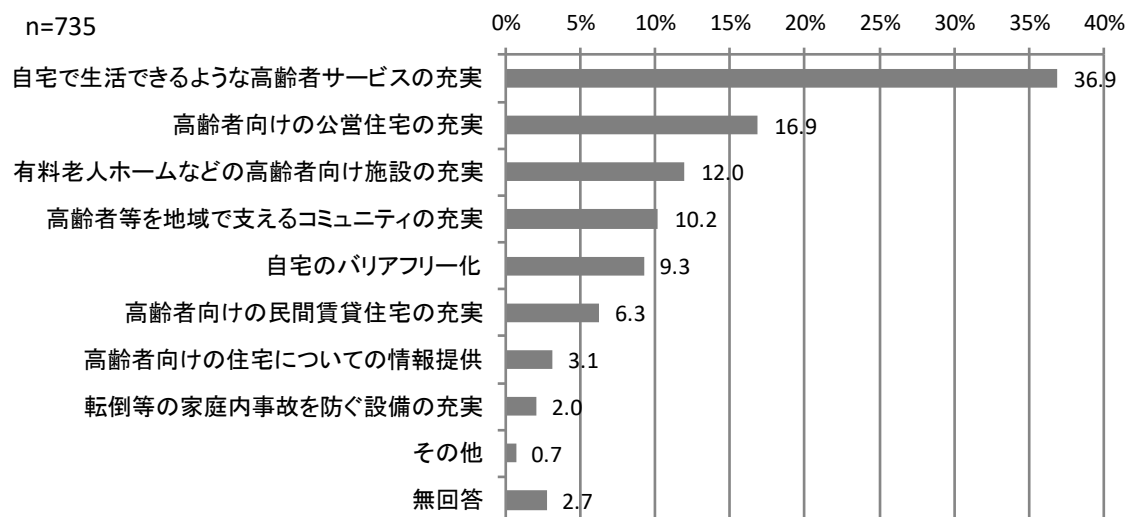
現在の住宅（問6）と比較すると、「持家（一戸建）」への居住意向が約20ポイント低くなり、「民間の賃貸住宅（集合住宅）」への居住意向が約10ポイント高くなっている。



10) 高齢者になった際に、安全・安心に暮らすために重要なこと（問 24）＜単数回答＞

自宅で生活しながら受けられる高齢者サービスが重視されやすい

「自宅で生活できるような高齢者サービスの充実」が36.9%と最も多く、次いで「高齢者向けの公営住宅の充実」が16.9%、「有料老人ホームなどの高齢者向け施設の充実」が12.0%となっている。



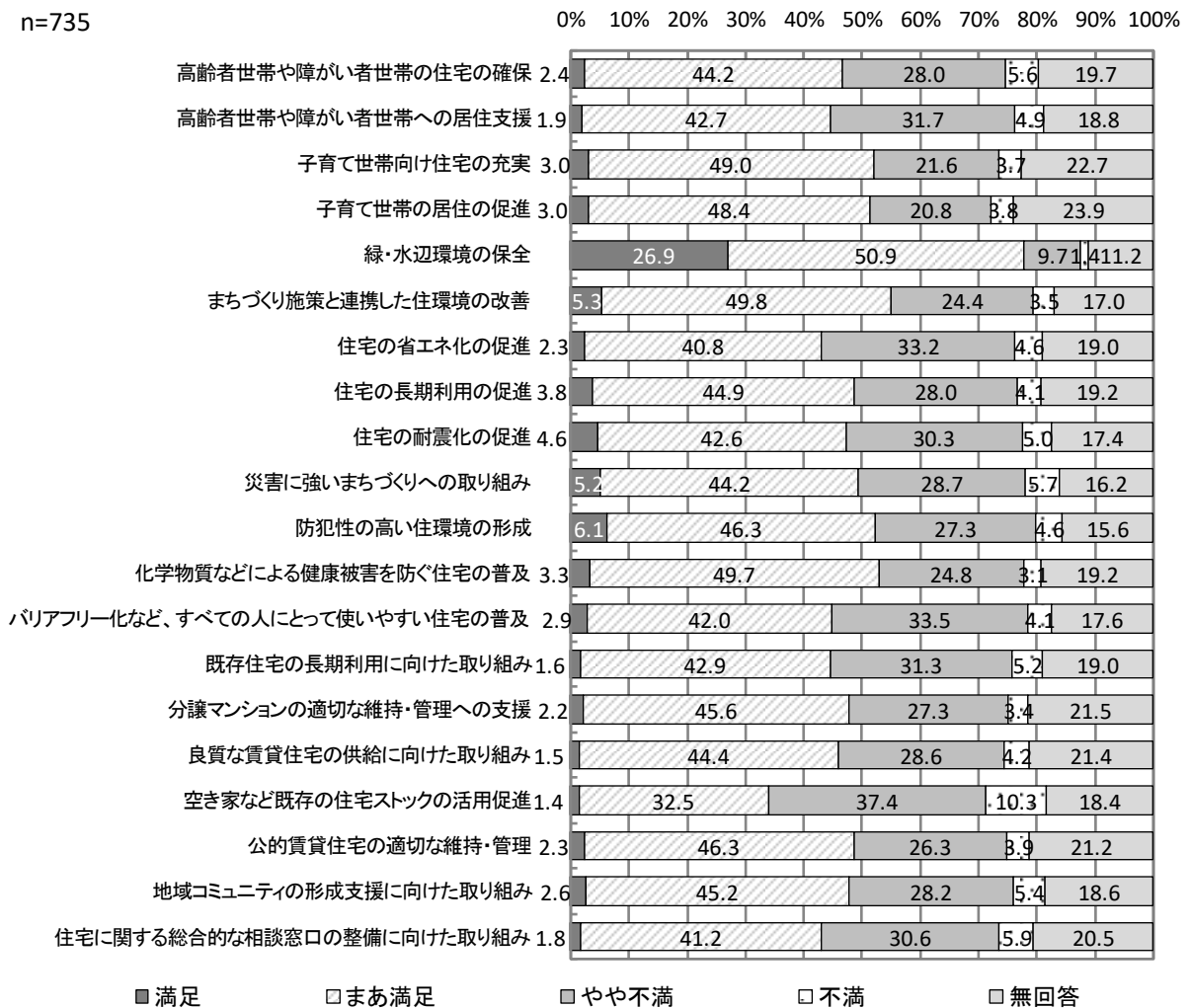
(6) 市の住宅施策について

1) 市の住宅施策に対する満足度（問 25）＜各項目への単数回答＞

自然環境の保全に関する施策の満足度が高い

住宅施策別に満足度（「満足」と「まあ満足」の合計）をみると、「空き家など既存の住宅ストックの活用促進」を除く全ての施策で、満足度が不満率（「不満」と「やや不満」の合計を上回っており、特に「緑・水辺環境の保全」では、満足度が77.8%と他の項目より20ポイント以上高くなっている。

また、「子育て世帯向け住宅の充実」、「子育て世帯の居住の促進」の子育てに関連した施策や、「まちづくり施策と連携した住環境の改善」、「防犯性の高い住環境の形成」、「化学物質などによる健康被害を防ぐ住宅の普及」では満足度が50%を超えている。



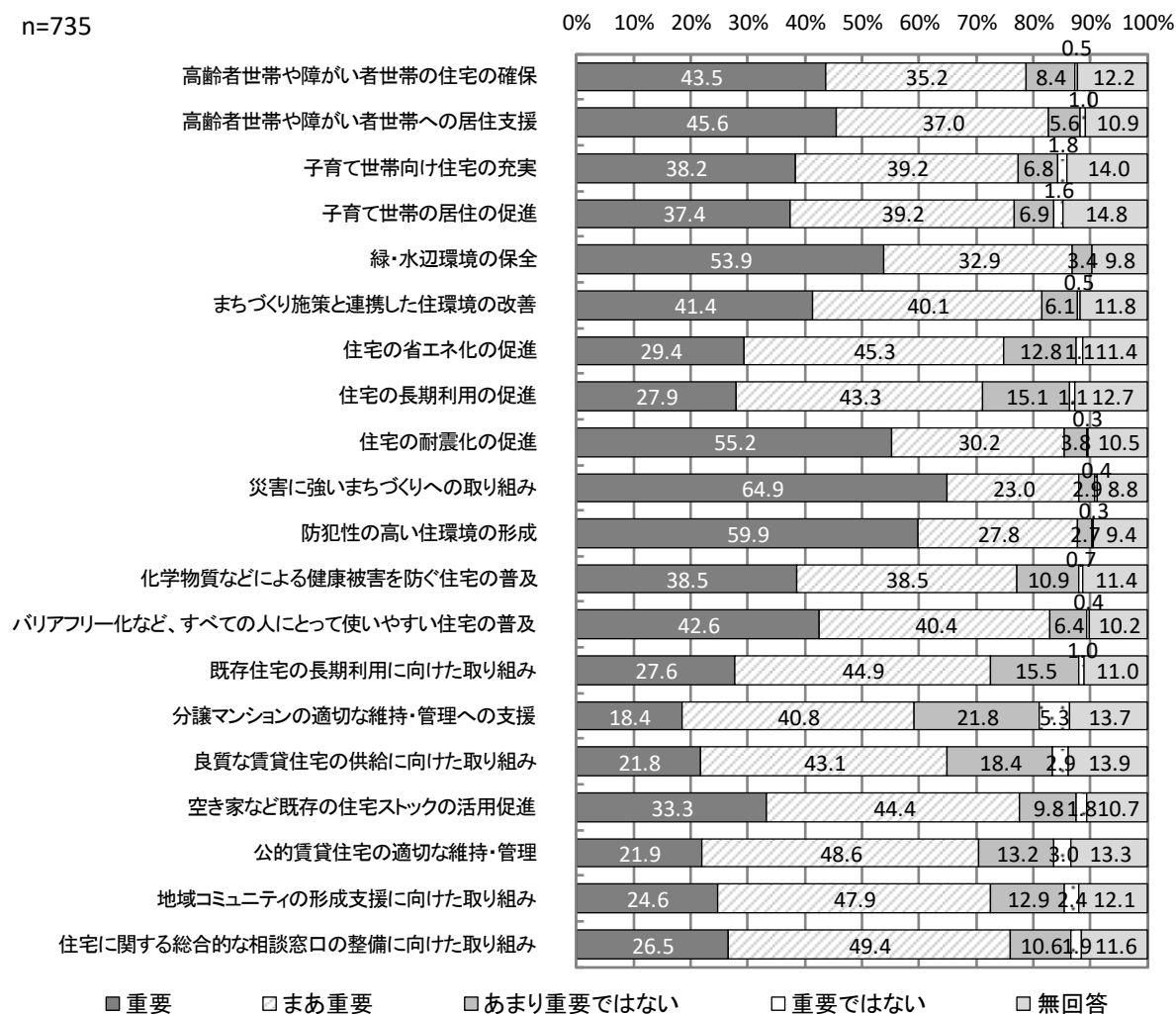
2) 市の住宅施策に対する重要度（問 25）＜各項目への単数回答＞

防災や防犯、自然環境の保全に関する施策の重要度が高い

全ての施策で重要度（「重要」と「まあ重要」の合計）は5割を超えており、「災害に強いまちづくりの取り組み」や「防犯性の高い住環境の形成」など防災や防犯に関する項目のほか、「緑・水辺環境の保全」の項目で重要度が85%以上と非常に高くなっている。

それに対し、「分譲マンションの適切な維持・管理への支援」や「良質な賃貸住宅の供給に向けた取り組み」の項目では、重要度が約6割と比較的低くなっている。

n=735

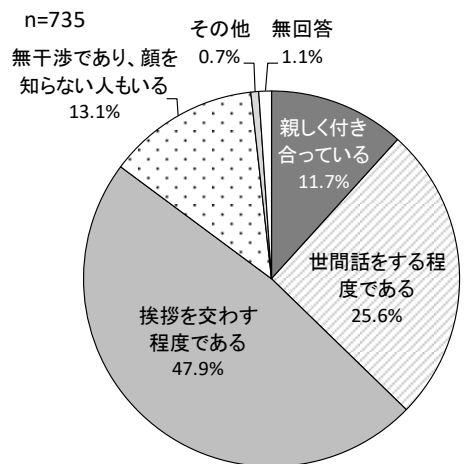


(7) コミュニティのあり方について

1) 近所づきあい (問 26) <単数回答>

挨拶を交わす程度の近所づきあいが約半数を占める

「挨拶を交わす程度である」が 47.9%と最も多く、次いで「世間話をする程度である」が 25.6%、「無干渉であり、顔を知らない人もいる」が 13.1%となっている。

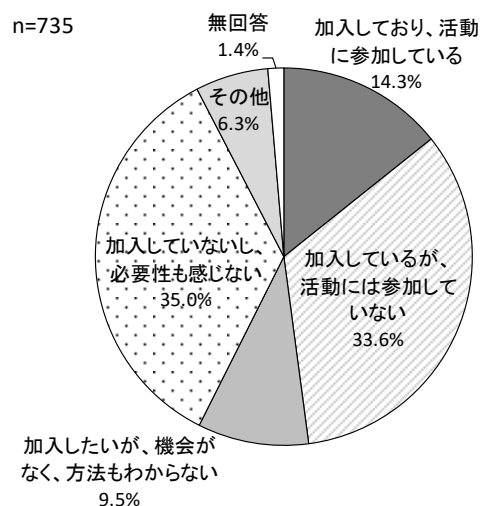


2) 自治会への加入状況 (問 27) <単数回答>

自治会の必要性を感じていない割合が高く、活動に参加していない割合も高い

「加入していないし、必要性も感じない」が 35.0%と最も多く、次いで「加入しているが、活動には参加していない」が 33.6%、「加入しており、活動に参加している」が 14.3%となっている。

また、「加入したいが、機会がなく、方法もわからない」が 9.5%となっており、自治会に加入していない世帯が 44.5%となっている。



3) 今後のコミュニティのあり方 (問 28) <単数回答>

日常生活での干渉を望まない世帯と住民同士での協力・助け合いを求める世帯に意向が分かれている

「あまり干渉しあわず、お互いのプライバシーを守りながら生活する」が 35.8%と最も多いが、「個々の生活には干渉しないが、祭や運動会等の活動は住民同士で協力しながら生活する」が 30.9%、「子育てや高齢者の介護等について、地域の住民みんなで助け合いながら生活する」が 27.9%と、住民同士での協力・助け合いを求める世帯もそれぞれ約 3 割程度みられる。

